

1. 会議名	令和８年度 第１回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議
2. 開催日時	令和８年（2026）７月６日（月）１４：００～１５：３０
3. 開催場所	出雲市役所６階 委員会室
4. 出席者	《委員》 【出席】 松本 新吾会長、山岡 忍副会長、木戸 康雄委員、原 久子委員、金築 千晴委員、小松 正嗣委員、坂根 俊委員、須田 のり子委員、兵井 早苗委員、槇原 綾子委員、加本 るい委員、山本 雅信委員、三島 慎也委員、陰山 篤也委員、寺本 淳一委員、中島 亮委員、福岡 耕治委員 【欠席】 江角 尚子委員、北脇 正巳委員、福田 実委員 《事務局》 商工振興課職員（６名）、産業政策課職員（２名）、観光課次長、インバウンド推進課長
5. 次第	1. 開会 2. 議題 （１）第２期出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係る令和７年度達成値について （２）第２期出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係る令和８年度の目標設定について （３）令和８年度 物価高騰対策関連事業（中小企業支援） 3. その他事項 4. 閉会
6. 会議内容（概略） ※敬称略	
事務局	ただいまから、令和８年度 第１回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を開会する。 委員の交代についてお知らせする。公益財団法人しまね産業振興財団 松浦研二委員が退任され、後任の木戸康雄委員、出雲市議会副議長 大場利信委員が退任され、副議長寺本淳一委員、出雲市商工振興部長角健二委員が退任され、商工振興部長福岡耕治委員にお願いをしている。任期は令和９年７月３０日となっている。 本日は欠席者３名であり、出席者１７名で振興会議を開催する。 【退任】 ・公益財団法人しまね産業振興財団 松浦研二 ・出雲市議会副議長 大場利信 ・出雲市商工振興部長 角健二 【新任】 ・公益財団法人しまね産業振興財団 木戸康雄

- ・出雲市議会副議長 寺本淳一
- ・出雲市商工振興部長 福間耕治

《議題 1：第 2 期出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係る令和 7 年度達成値について

議題 2：第 2 期出雲市中小企業・小規模企業振興計画に係る令和 8 年度の目標設定について》

会長 議題 1 について事務局に説明をお願いします。

事務局 [資料 1、2 に基づいて説明]

会長 ただいまの説明を受けて、何か質問等があるか。

委員 観光の入込客数と観光消費額について、どのように算出されているのか。

事務局 島根県が実施している観光動態調査に対しての観光入込客数をかけて、算出したものである。

委員 島根県立古代出雲歴史博物館は年間何万人の来客があるのか。

事務局 同館は令和 7 年 4 月から休館となっている。令和 6 年度の来客数は、194,000 人である。

委員 出雲ブランドの認定数について、昨年度 2 商品とあるが、どのようなものだったかわかりづらい。また、認定するために自分の会社の商品を PR し申請するのか、それとも一般の方が推薦するのか。

事務局 昨年度認定したのは 2 商品のうち、1 つは出雲そば雅という乾麺であり、有限会社児玉製麺の商品である。もう 1 つが株式会社エルのアンディズモという水性ネイルカラーである。自分で申請されている。場合によっては、こちらから声掛けするようなケースもある。また、認定商品については広報いずもでお知らせをしている。

委員 市内の就職人数について、主な就職先と種類はどうなっているのか。

事務局 普通高校の生徒は、ほとんどが進学になる。昨年だと就職者 238 人が就職を希望されており、業種の動向は把握できていないが、製造業のところが多い。また、小売・卸売は母体が大きいので、そのあたりの就職率が高い。

委員 小中学生に対し早期にふるさとキャリア教育を行うとあるが、具体的にどのような教育をするのか。

事務局 既に小学校中学校でふるさと教育をされてるということには伺っている。特に中学 3 年生が現場の方へ出て実際に体験をするという形で、やっている。高校生が卒業し、進学される傾向が高いということと、市の方でアンケートを実施した際に、出雲市内にどんな企業があるのかわからないという声を多く伺うことがあるので、小中学校という段階に限らず早い段階から、市内の業種がどんなものがあるのかというのを、早期にやっていかないといけないと考えている。

委員 創業件数は堅調であるとあるが、内訳としてはどのような創業の種類があるのか。また、創業されて後追い調査みたいなものはされているのか。

事務局 飲食業や美容系が特に多くなっている。創業支援した関係のところは、5 年間は後追い調査している。ただ、1 割程度は廃業されている状況である。

委員 産学官連携マッチング支援について、一昨年、昨年ともに 0 件なので、やり方を変えなといけない。また、スタートアップともコラボについて、具体的にどのように進めていくのか。

事務局 これは、島根大学医学部から依頼があつて初めてマッチングっていう形になり、一昨年、昨年もそうだが、こういったものが欲しいというような依頼がなかったため、0 件であった。また、

	新任教授はヘルスケアビジネスに興味があり、創業や産学連携の中で、可能性があれば、話をお聞きしながら、やっていきたい。
委員	いずれ縁結び PAY の登録者数の目標値を今年度 25,000 人している。後ほど出てくるデジタル商品券の申込者が 33,000 人であり、少なくとも現段階で、それ以上の方がアプリを登録していることになるが、なぜ 25,000 人なのか、その理由について教えてほしい。
事務局	25,000 人としているのは、いずれ縁結び PAY 登録者であり、デジタル商品券の申込者数とは別のものである。商品券事業が終われば、このいずれも縁結び PAY を使われる方が少なくなことを懸念している。今後とも様々な周知を行い、市民のたくさんの方に使っていただけるような形で、この 25,000 人を目指していきたいと考えている。
委員	いずれ縁結び PAY の令和 7 年度達成値の 21,638 人（リニューアル前）はどのような値になるのか。
事務局	昨年度に使い勝手が悪いと言われていた、もともと使っていたアプリを大幅にリニューアルして、使われる方の利便性を図るということで行ったものである。そのリニューアルを行った、令和 8 年の 1 月末時点のアプリの登録者数を今回数値化したものである。実際のところ、2 月 1 日になってアプリが変わった時点になると、かなり人数が減っている。
委員	資料 2 の構成について、こういった取り組みを行い、この結果なのかというところがわかりにくい。取り組み内容などを具体的に書いてあると良いと考えている。
事務局	検討する。
委員	観光消費額は、部門別（宿泊、飲食、土産）の形での数字はあるのか。
事務局	観光動態調査については、県内客の宿泊、県外客の宿泊、あと県内客の日帰り、県外の日帰り日帰り客の 4 パターンである。そちらの方で、それぞれ、交通費、宿泊費、土産物代、飲食費、入場料と 6 項目の集計となっている。 県のホームページ、出雲市のホームページに掲載しており、数字として確認できる内容です。
委員	地場でどのくらいの効果があったのかということで、質問させてもらった。
事務局	地場企業にどれほど効果があったのかは押さえていない。
事務局	先ほどの質問について、直近のいずれも縁結び PAY の 6 月末の登録者数は、20,767 人である。縁結び PAY のサイフの数である。
委員	商品券を申し込もうとした時に、縁結び PAY のサイフは自動で作成されるのか。
事務局	商品券を申し込んだ際に、自動的にはいずれも縁結び PAY のサイフは追加されない。いずれも縁結び PAY のサイフを追加した方の数字をこちらに記載している。
委員	産官学連携こそ、この農業畑の人間には必要であり、やりたいという要望がある。私は干し柿を作っているが、干し柿の製造工程に関して、学会と連携して新しい製造方法を作るとか、そのようなことはすごく伸びしろがあると思っている。今まで、商工振興課との接点がなかったが、縦割りではなく、連携できればと考えている。
事務局	普段は農業振興課の方とやりとりをされていると思うが、そちらとも話をしてみたいと思う。
委員	スマート農業関連については、農業振興課も力を入れているので、引き続き、意見交換や協議をしていただけたらと思う。商品開発小売などの生産工程の部分についても、島根大学の地域未来共創本部等と連携はできるので、お尋ねになりたいことがあれば市に言ってもらいたい。

	できればそういったところをミライビジネスいずもに期待しており、そうした面での支援というのはできていると思っているので、何なりとご相談いただきたい。
会長	産学官連携についてはフィールドを狭くしてしまうと、案件が伸びないと思うので、事業者の側も農業者も含めて、額も幅を広めて、医学部に固定せずやらないと数の広がりが出てこないと感じる。柔軟にやったほうが良いと思う。
委員	出雲市の地域商業等支援事業費補助金確定数について、1件当たりの申請が増えているため、補助件数が限られてしまうとある。補助上限額を下げ、補助件数を増やすというのは、おかしいんじゃないかと思うがどうか。
事務局	今年度見直しを行って、これまで空き店舗だけで限定してやっていたが、空き家も昨今すごく増えてきている。使いやすいようにということだけを対象にしたり、対象地域についてもエリアを拡大し、商工団体の皆様の意見を伺いながら進めてきている。創業される方に使いやすい効果がある制度にしていきたい。
《議題3：令和8年度 物価高騰対策関連事業（中小企業支援）》	
事務局	〔資料3に基づいて説明〕
会長	説明を受けて意見、質問等はあるか。
委員	デジタル商品券についてだが、今回プレミアム率が30%から50%になって、33,289人の応募があって、購入期限が7月30日となっている。昨年の商品券の際に応募して当選したけど、購入しなかったっていう人も多くおられたのか。
事務局	昨年度の第1弾は、83%が購入された。第2弾については、これが88%の方が購入された。今回はプレミアムの率も高く額も大きいので、多く買われると想定しているが、終わってみたいとわからない。
委員	昨年度の商品券の利用率で、どのくらいの金額が使われ、チャージしていたがゼロになってしまったという割合がわかるのか。また、使われていない方に対して、個別に通知がいくのか。
事務局	使われた率は99.9%であり、買われた方のほとんどが使われました。買われた金額の約450,000千円に対し500千円の使い残しがあった。前回については、使われていない方に電話をさせていただき、お知らせを行った。
委員	中小企業者等物価高騰対策省エネ支援補助金の8年度申請件数について、県補助上乗せ分が3件で、市独自分が7件であるのか。市独自の方が、小規模、事業所向けの方がニーズがあるってということなのか。
事務局	事業所の規模ではなく、取りかえをされる事業の規模である。補足だが、県の方の上乗せの方が、ものづくり1件それから飲食商業2件という状況である。この申請が受け付けれるのが、島根県の事業がすべて終わり、補助金実績報告後に確定通知書が出された時点で初めて市でお受けするものである。
委員	IT産業の活性化とあるが、農業の方もスマート農業もいろいろ取り入れてられるということか、このITの育成人材育成に関しては農業関係の方も一緒にやっていかれるということか。
事務局	IT産業活性化については、将来のIT産業を担う人材の育成というところに重き置いている。農業とか業種に特化したようなものではなく、全般的なITに関心を持ってもらう事業になる。

先ほどの意見は非常に参考になったので、今後そういった農業関係で使える I T とか、そういったところも工夫をして、取り入れていくというのは、検討していきたい。

会長

それでは以上で、本日予定されていた議事は終了した。事務局にお返しする。

事務局

令和 8 年度の振興会議の 2 回目の日程だが、1 1 月ごろに開催する予定としている。また時期が近づいたら正式にご案内をさせていただく。

以上をもって、令和 8 年度 第 1 回出雲市地場中小企業・小規模企業振興会議を閉会する。